

出題のねらい・解答例 〔学校推薦型選抜〕

中村学園大学短期大学部〔幼児保育学科〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

今年の課題文は幼児保育学科における特色を中心として、特に乳幼児期の子どもの「自尊感情」についての話題を題材とした。近年の子育て環境の変化や子どもの自尊感情を尊重することの意義について書かれたものであり、本文の内容を踏まえて自らの考えを論理的にまとめ表現する力を見ることを目的とした。

〈各設問の講評〉

設問一は、課題文中の文脈に即して、正しい漢字を書き取る問題である。正答は①未熟②権利③高齢④想像⑤生涯、である。④において創造、⑤において障害の間違いが散見されたが全体的に正答率は高かった。

設問二は、本文中の文章を用いて回答する問題である。正答は「子どものペースを保障したり、その子のうまくいかなさを理解したり、がんばろうとしていることを認める他者が存在すること」である。尚、下線の三つのキーワードが入っていれば正答とした。本文では家庭での保育や園での保育についての記載もあるが、「全ての子育てについて」と指定することで適切に著者の主張を抜き出すことを問うた。また、本文では「・・・保障されたり、・・・理解してもらえたり」と子どもの立場で書かれているが、正答にあるように客観的に表現すること、および、基本的な日本語表現である「たり」の使用方法を減点要因とした。設問二に関しては例年に比べて難易度を上げたこともあり、正答率は6割強とやや下がった。

設問三は、課題文を踏まえ自らの考えをまとめ記述する問題である。自分の考えを論理的にまとめ、400字以内で他者に分かりやすく表現できているかを中心に評価した。多くの受験者は制限字数に過不足なく自身の考えを記述できていた。また、例年との違いは課題文が短かったこともあり、志望動機や抱負など、課題文とは直接的に関係のない記載が少なく、回答の殆どが課題文を踏まえた内容であり、課題文を踏まえて自らの見解がしっかりと述べられていた。但し、一部、字数不足や本文の引用が長すぎるもの、また、段落がなくまとまりに欠ける解答も見受けられた。自らの考えを分かりやすく伝えることができるよう、日頃から読書等で文章に触れ、文章構成力と表現力を身に付けることを心がけて欲しい。